



# 第44期 決算説明資料

お客様の価値観を共有するパートナー  
Value Engagement Partner

**Si&C** 株式会社 システム情報

# 目次

---

I. 2023年9月期 決算ハイライト

II. 直近トピックス

III. MBO

## 参考資料

- ① 当社の概要
- ② 持続的成長に向けた継続的取組み
- ③ ESG、SDGs、社会貢献活動

# I . 2023年9月期 決算ハイライト

# I-1. 決算概要（連結）

## 連結損益計算書

単位：百万円

科目	2022年9月期		2023年9月期		前期比 増減率
	金額	売上高比	金額	売上高比	
売上高	14,655	100.0%	<b>15,327</b>	<b>100.0%</b>	<b>4.6%</b>
売上総利益	3,126	21.3%	<b>3,152</b>	<b>20.6%</b>	<b>0.8%</b>
販売費及び 一般管理費	1,310	8.9%	<b>1,460</b>	<b>9.5%</b>	<b>11.4%</b>
営業利益	1,815	12.4%	<b>1,692</b>	<b>11.0%</b>	△ <b>6.8%</b>
経常利益	1,829	12.5%	<b>1,716</b>	<b>11.2%</b>	△ <b>6.1%</b>
当期純利益	1,242	8.5%	<b>1,163</b>	<b>7.6%</b>	△ <b>6.4%</b>
1株当たり 当期純利益 (円)	53.36	—	<b>50.47</b>	—	△ <b>5.4%</b>

## I-2. 決算のポイント

- ◆ ビジネスの変化、消費動向の変化の中で  
デジタル化加速・DX関連需要が一段と増大した
- ◆ 保険・金融セクター、流通・小売・サービス産業向け開発案件好調  
売上高は、年度・四半期ともに過去最高更新した
- ◆ 採用強化、教育・研究注力、オフィス増床、待遇改善、システム刷新等により  
経費の増加が売上高の増加を上回った
- ◆ 採用や人材育成の強化が単年度利益を圧迫したが  
将来に向けた適切な人材獲得を行えた

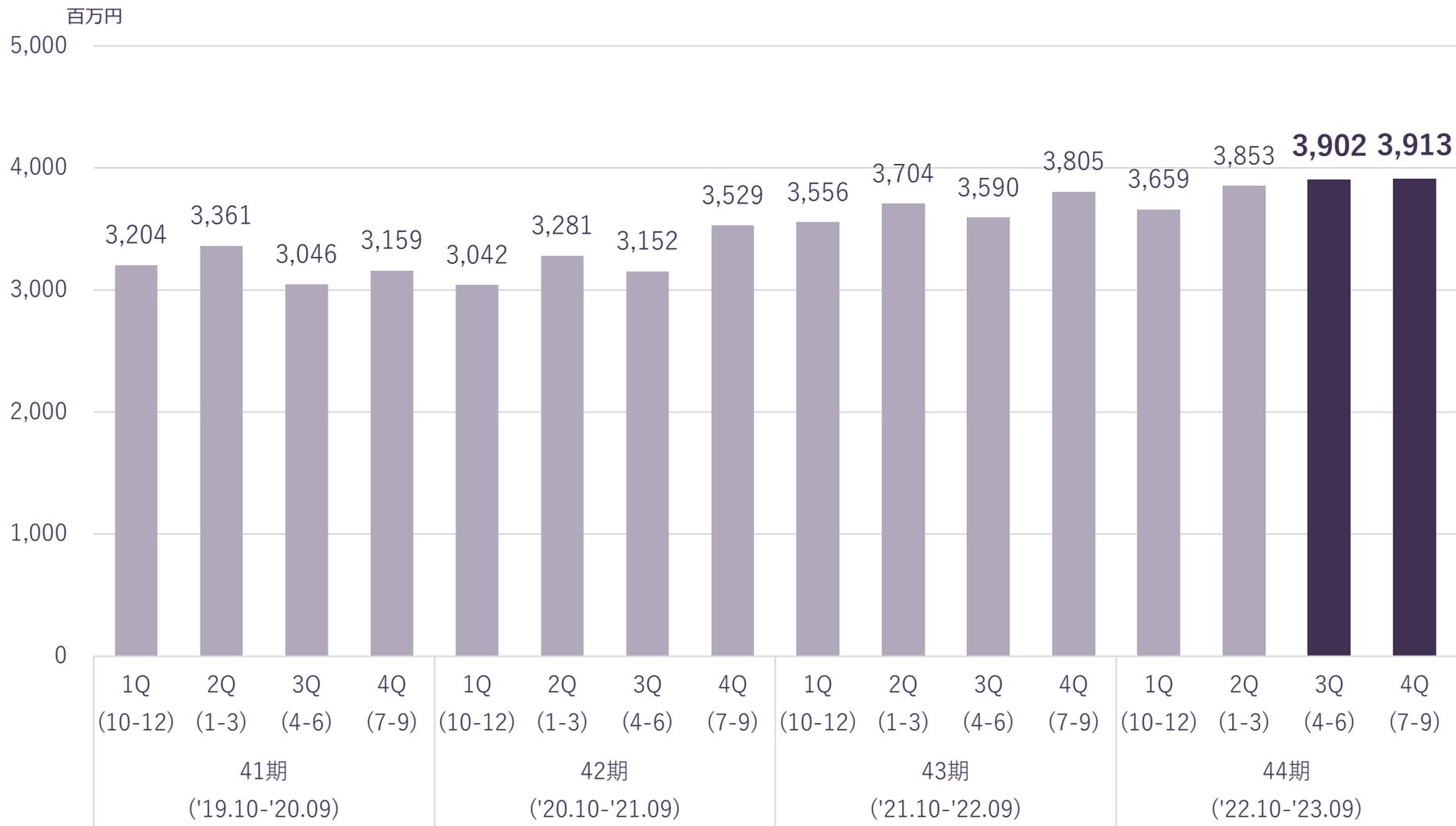


- 高付加価値人材創出の成果で、**DX案件比率は3割超**
- 四半期売上高は**過去最高**（第3Q:39億2百万円、第4Q:39億13百万円）
- 先行投資等による経費増で、営業利益は前年同期比

**1億23百万円減の16億92百万円**

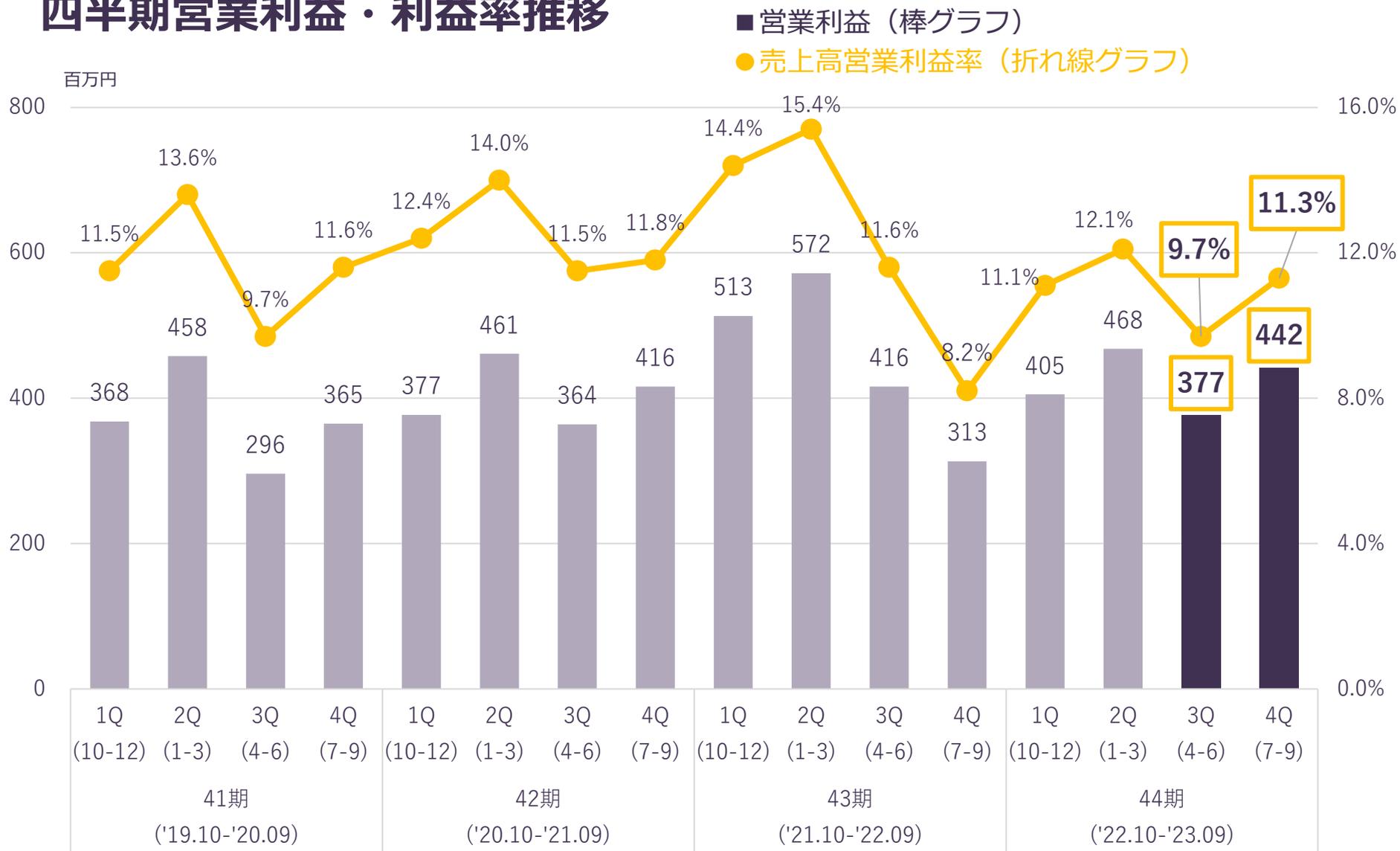
# I-3. 四半期推移 ①売上高

## 四半期売上高推移



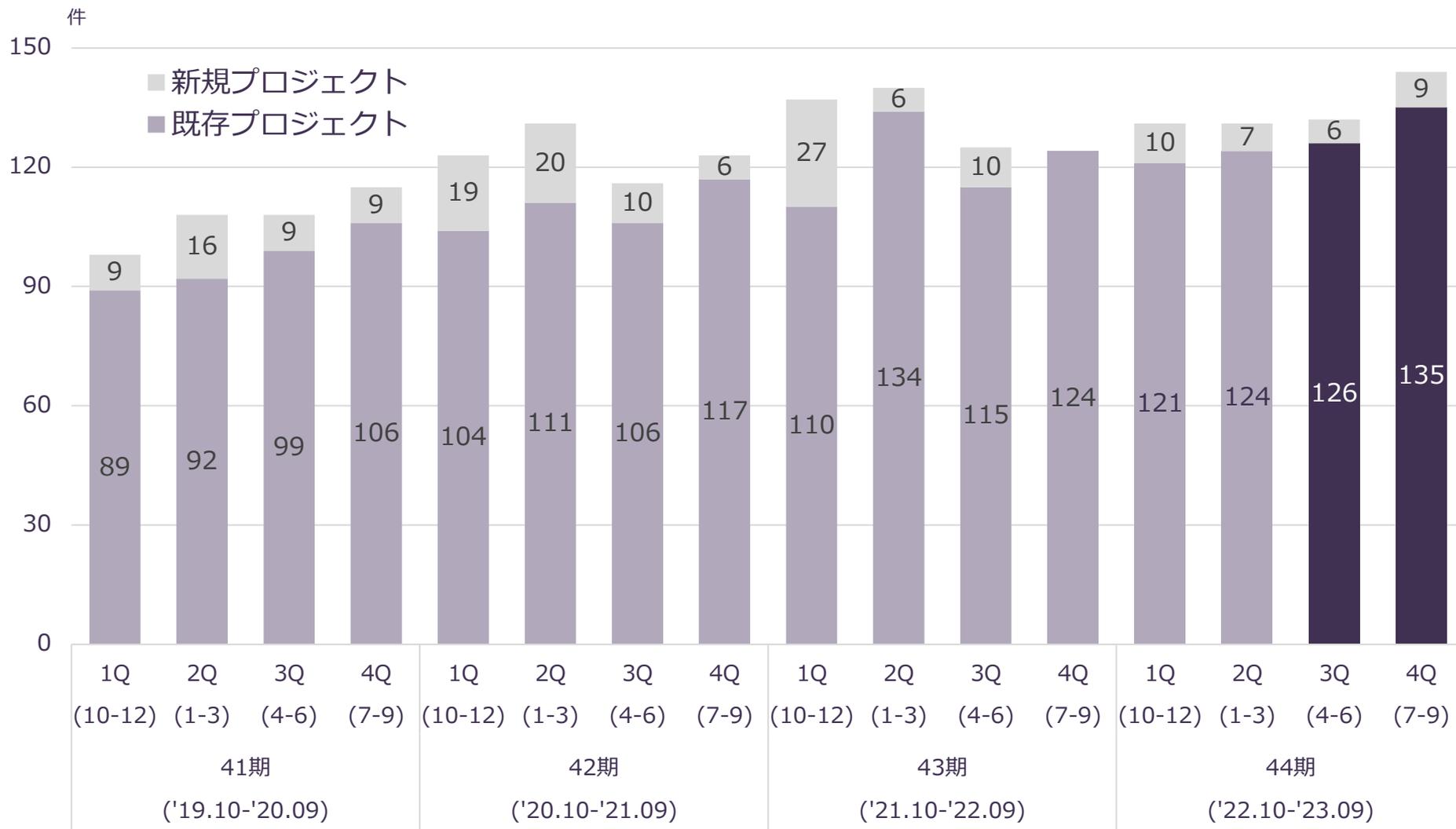
# I-3. 四半期推移 ②営業利益と利益率

## 四半期営業利益・利益率推移



# I-3. 四半期推移 ③稼働プロジェクト数

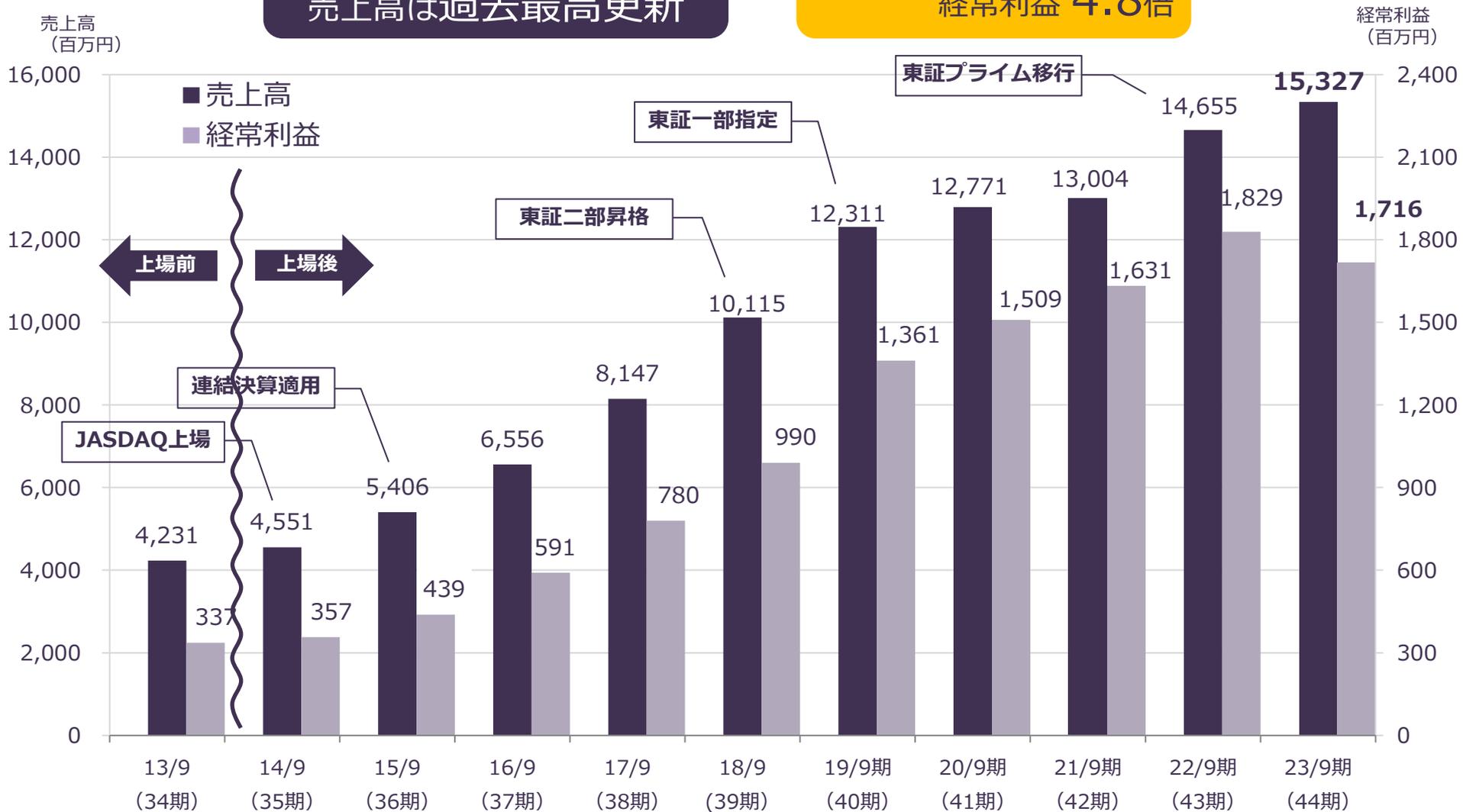
## 稼働プロジェクト数推移



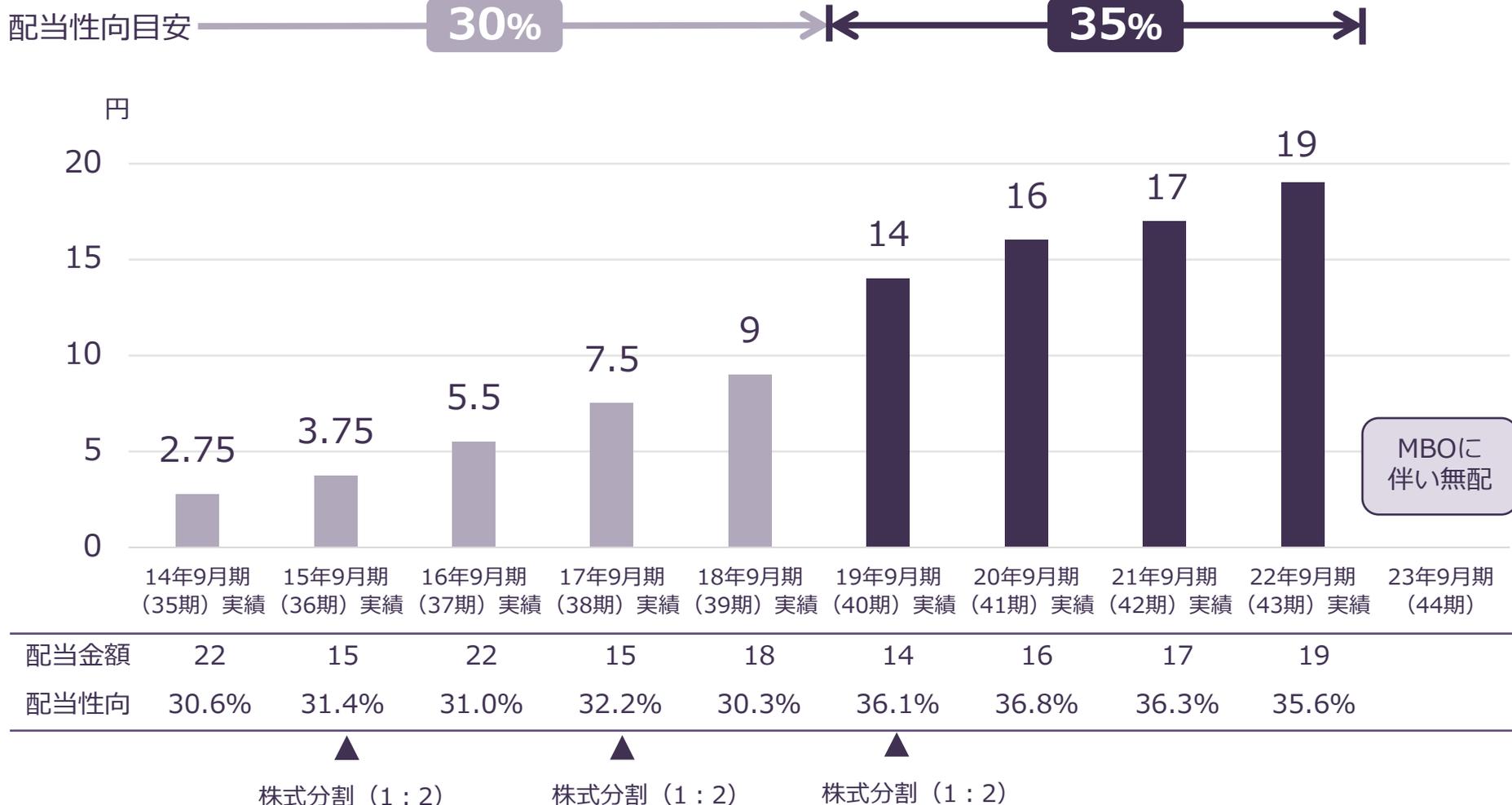
# I-4. 年度推移 ①売上高と経常利益

上場以降10期連続増収  
売上高は過去最高更新

上場以降、売上高 3.4倍  
経常利益 4.8倍

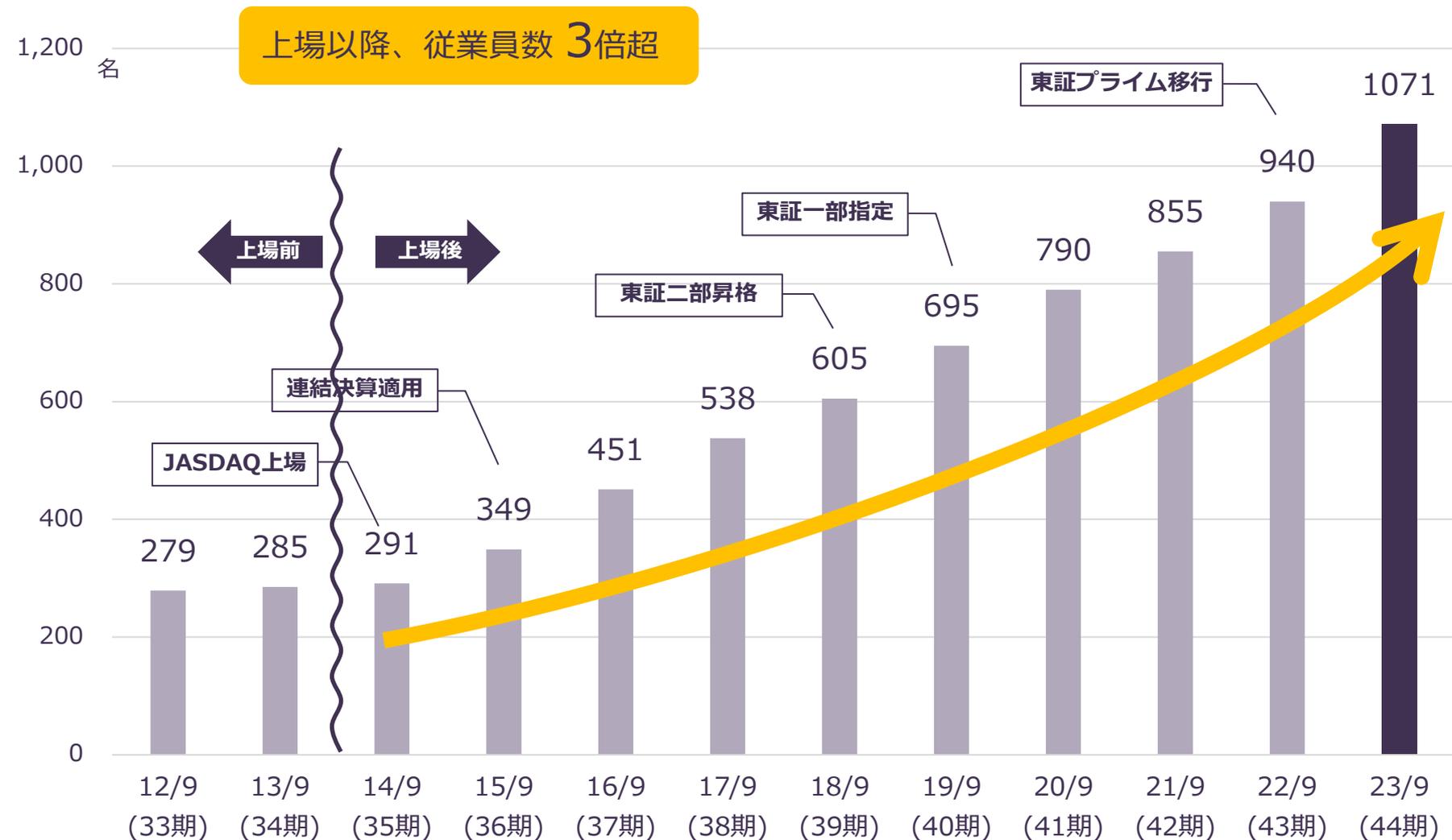


# I-4. 年度推移 ②株主還元

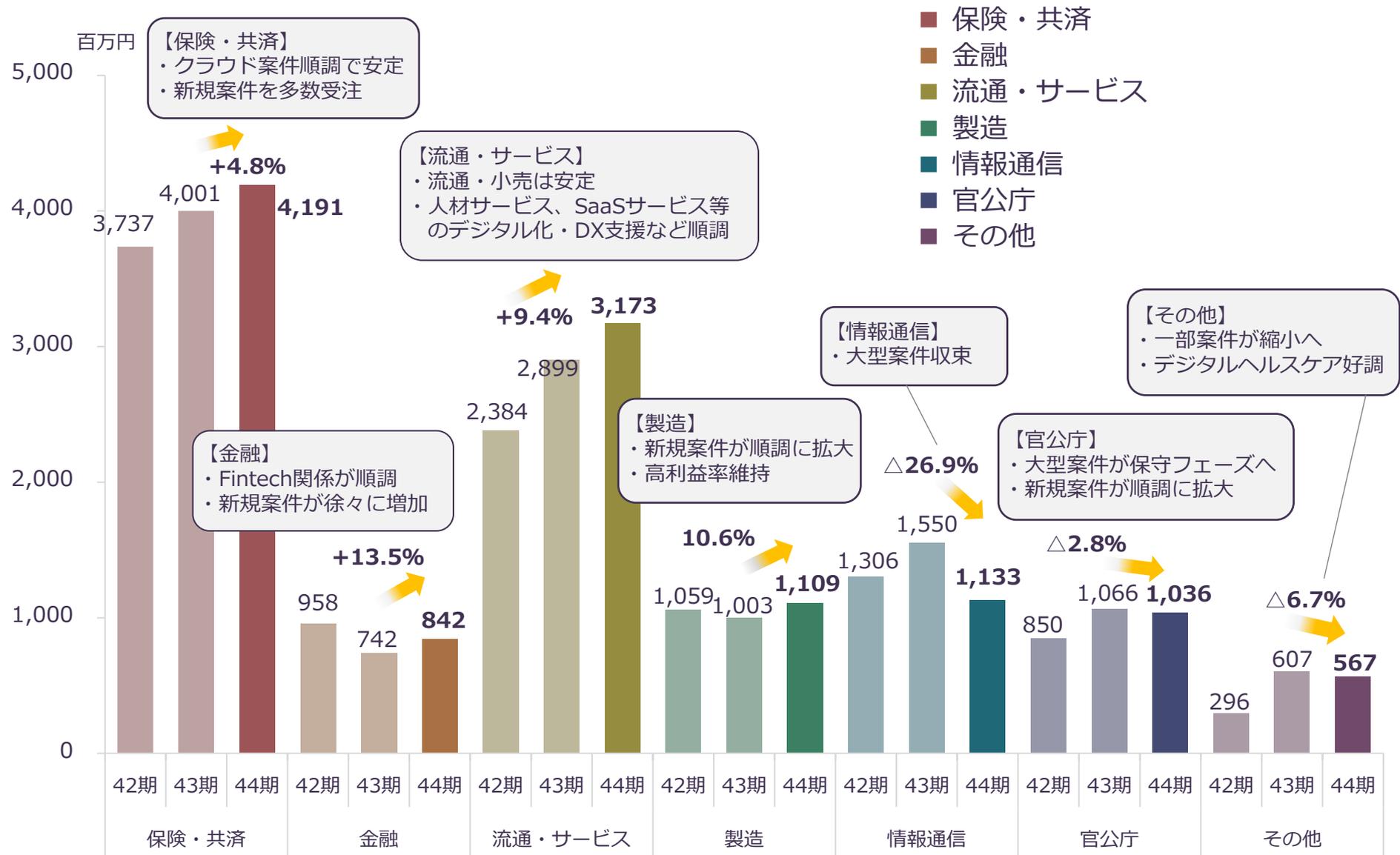


注) 当社は、2015年7月1日に1株を2株の割合で、2017年6月1日に1株を2株の割合で、2019年5月1日に1株を2株の割合で株式分割を行っております。配当金額については、当該株式分割を考慮して算定しています。

# I-4. 年度推移 ③従業員数

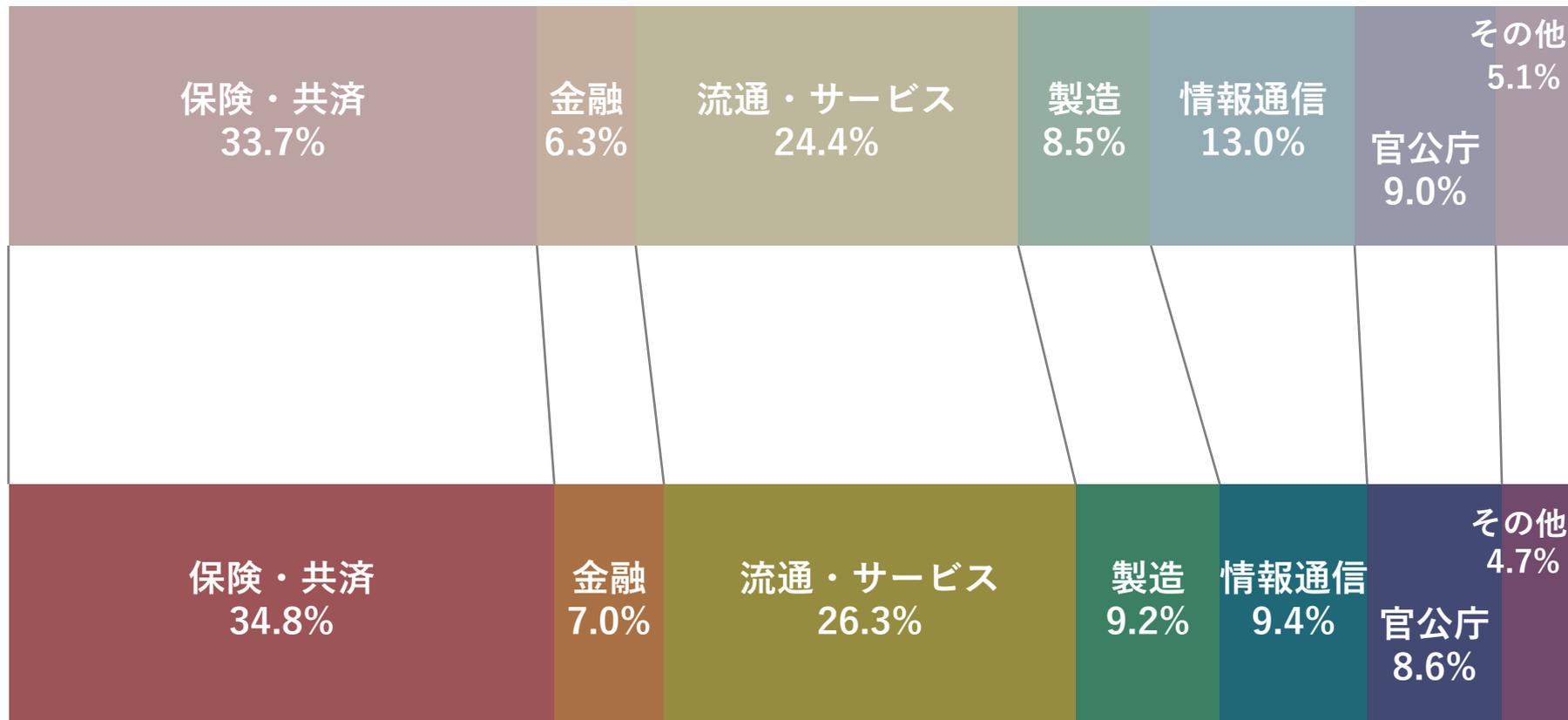


# I-5. 業種別売上高（単体） ①推移



# I-5. 業種別売上高（単体） ②比率

43期 売上高合計 11,858百万円



44期 売上高合計 12,054百万円

# I - 6. 財政状態（連結）

## 連結貸借対照表

単位：百万円

	2022年9月期	2023年9月期	増減	増減要因
流動資産	6,139	<b>6,758</b>	619	(+) 現預金
固定資産	1,656	<b>1,831</b>	174	(+) 投資その他の資産
資産合計	7,795	<b>8,589</b>	793	
流動負債	2,098	<b>2,083</b>	△14	
固定負債	295	<b>333</b>	37	
負債合計	2,394	<b>2,417</b>	22	
純資産合計	5,400	<b>6,172</b>	771	(+) 利益剰余金 (-) 株主配当金
負債純資産合計	7,795	<b>8,589</b>	793	

自己資本比率 **71.9%**

## Ⅱ. 直近トピックス

## Ⅱ. トピックス ①

# 「Google Open Source Peer Bonus」受賞

## 当社DX技術本部山田豊が受賞

「Google Open Source Peer Bonus」プログラムは、世界中のエンジニアを対象として、オープンソースへの貢献が顕著と認められたエンジニアをGoogle社が表彰する制度。

Google社が提供するオープンソース「Blockly (注)」をビジネス適用するための活動をおこなっており、その技術的貢献が評価され、今回の受賞に至りました。

(注) Blockly : Google社が開発するビジュアルプログラミング言語のライブラリ。教育などの分野において世界中で広く利用されており、視覚的なオブジェクトを用いてシステムの開発が可能となる



当社グループのブランド価値向上へ貢献



## Google Open Source Peer Bonus

April 19, 2023

Dear Yutaka Yamada,

On behalf of Google Open Source, I would like to thank you for your contribution to Blockly.

We are honored to present you with a Google Open Source Peer Bonus. Inside the company, Googlers can give a similar bonus to each other for going above and beyond, so this is just a small way of saying thank you for your hard work and contributions to open source.

We hope you enjoy this gift from all of us at Google and Christopher Allen who nominated you.

Thank you again for supporting open source! We look forward to your continued contributions.

Best regards,

Chris DiBona  
Director of Google Open Source

## Ⅱ. トピックス ②

### 「ソフトウェアエンジニアリングシンポジウム2023」最優秀論文賞 受賞

#### 社外取締役鷲崎弘宜、フェロー小林浩らの論文が受賞

社外取締役 鷲崎弘宜、フェロー小林浩が、情報処理学会ソフトウェア工学研究会主催の「ソフトウェアエンジニアリングシンポジウム2023」にて最優秀論文賞を受賞しました。

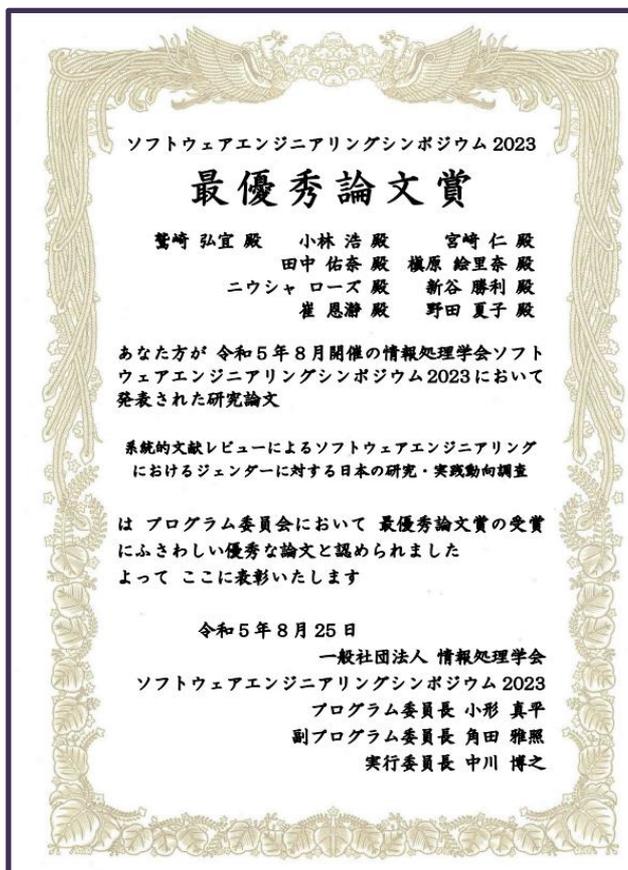
今回表彰された研究論文「系統的文献レビューによるソフトウェアエンジニアリングにおけるジェンダーに対する日本の研究・実践動向調査」は、鷲崎が執筆をリードし、小林は共同執筆者の一人として参加しました。

当論文は、2023年1月に開催された、情報処理学会ソフトウェア工学研究会主催「ウィンターワークショップ 2023・イン・富山」でのダイバーシティをテーマとしたワークショップの成果であり、同時に、当ワークショップを通して立場や組織を超えたネットワークを形成することができました。

当社はこれからも、ジェンダーをはじめとしたダイバーシティに関する問題の解決、およびダイバーシティの活用による社会課題の解決への貢献を継続してまいります。



当社グループのブランド価値向上へ貢献



## Ⅱ. トピックス ③

エーエスエルが日経CNBC「時代のNEW WAVE」で紹介されました

時代のNEW WAVEで弊社が紹介されました！

時代のNEW WAVE  
ニューウェーブ

エンジニアファーストを掲げ  
業界の不規則な働き方の課題解決のために  
ウェルビーイング経営を推進している



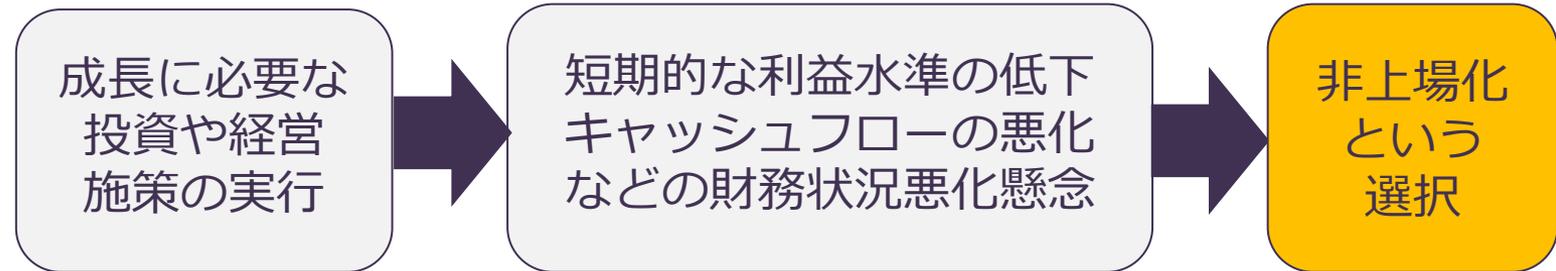
子会社である(株)エーエスエルの社長および部長や社員複数名が、  
2023年5月「時代のNEW WAVE」(日経CNBC)に出演しました。

当社グループのブランド価値向上へ貢献

# III. MBO

# Ⅲ. MBO及び非上場化による成長戦略

【背景】 課題解決が急務



【非上場化による成長戦略】

ベインキャピタルによるコンサルティング・アプローチを活用した成長戦略・事業構造変革の設計・遂行や人的支援

- (1) ベインキャピタルの投資先との協業による新規ソリューション及び新規顧客基盤の獲得
- (2) 中長期の成長に向けた人材及び組織基盤の強化
- (3) M & A による事業の拡大

# Ⅲ. MBOスケジュール

2023年9月27日 MBO(※1)実施とTOB(※2)開始を公表

※1 MBO（マネジメントバイアウト）・・・経営陣が外部の投資家や金融機関と協力し、企業の株式の大部分を現在の株主から買い取ること

※2 TOB・・・公開買付者が「買付期間」「買付価格」「買付予定数」などを公告し、不特定多数の株主から取引所の市場外で株式を買い集めること

TOB期間：2023年9月28日～11月10日

2023年11月10日 TOB成立

2023年11月30日 臨時株主総会招集基準日

2023年12月22日 定時株主総会開催予定（2023年9月末基準株主対象）

2024年1月 臨時株主総会開催予定（株式併合議案の上程）

2024年2月 上場廃止予定

## ＜参考資料＞



① 当社の概要

② 持続的成長に向けた継続的取組み

③ ESG、SDGs、社会貢献活動

# ①-1. 会社概要

2023年9月末現在

社名	株式会社システム情報
設立	1980年（昭和55年）1月
事業内容	受託ソフトウェア開発／主として企業向け総合ITサービス
所在地	東京都中央区勝どき1-7-3 勝どきサンスクエア7階
資本金	502,636千円
代表	代表取締役社長 鈴木 隆司
主要取引先	NTTデータグループ、第一生命情報システム（株）、日鉄ソリューションズ（株）、東芝デジタルソリューションズ（株）、日本アイ・ビー・エム（株）、三菱電機インフォメーションシステムズ（株）、リコーITソリューションズ（株）、DXCテクノロジー・ジャパン（同）、ドコモ・データコム（株）、エメラダ（株）
資格	<b>CMMI®レベル5</b> （2012年達成、2015年、2018年、 <b>2021年9月継続達成</b> ） ISO/IEC27001（情報セキュリティマネジメントシステム：ISMS）（2010年12月） ISO14001（環境マネジメントシステム）（2007年1月） プライバシーマーク（2005年12月） くるみん（2021年1月） 健康経営優良法人（2023年3月） Scaled Agile Framework®（SAFe®）（2021年2月）

# ①-2. SIビジネスの構造

## エンドユーザ

※大手生損保、大手流通業・サービス業、各種通信事業者、官公庁など

大手SIer

プライム契約

### (株)システム情報

当社品質

コンサルティング

CMMI®

SICP

CAMBRIC技術

プロジェクト・マネジメント

PMP

経験

当社人材

デザイン思考

ファシリテーション・スキル

アジャイル

ビジネス  
パートナー

ビジネス  
パートナー

ビジネス  
パートナー

ビジネス  
パートナー

ビジネス  
パートナー

...

ビジネス  
パートナー

# ①-3. SIビジネスの事業領域

## 新規開発フェーズ

## 保守フェーズ

コンサル  
ティ  
ング

アプリケーション開発  
【主な開発言語】  
Java 70% .NET 15% 他

インフラ設計構築

ネットワーク設計構築

保守開発

運用保守  
(オペレータ等)

インフラ保守

ネットワーク保守

当社の業務範囲

# ①-4-1. 差別化の原動力（開発品質の進化）

## CMMI達成の歩み

レベル3  
2006年9月達成

レベル4  
2010年9月達成

**最高位：レベル5**  
2012年11月達成  
2015年11月達成  
2018年10月達成  
**2021年9月達成**



**CMMI DEV / 5<sup>SM</sup>**

CMMIは米国SEIが開発したソフトウェア開発プロセスの能力成熟度モデルで、組織のプロセス能力を5段階で評価し継続的な改善を促す、体系的なプロセス改善のためのモデルです。

成熟度  
レベル **5** 最適化している

『安定しており柔軟である。』企業組織は継続的な改善に焦点を合わせ、機会と変化に対して方向転換や対応ができるように構築されている。組織の安定性が、プラットフォームに機敏性と確信をもたらす。

成熟度  
レベル **4** 定量的に管理された

『測定され制御されている。』企業組織は、定量的な実績の改善目標（予測可能）と共にデータで運営され、内外の利害関係者のニーズを満たすように調整する。

成熟度  
レベル **3** 定義された

『受け身の対応ではなく、先を見越した対応。』組織全体の標準が、プロジェクト、プログラム、およびポートフォリオにわたって手引きを提供する。

成熟度  
レベル **2** 管理された

『プロジェクトレベルで管理されている。』プロジェクトは、計画され、実施され、測定され、そして制御されている。

成熟度  
レベル **1** 初期の

『予測不能で受け身の反応型である。』作業は完了するが、しばしば遅延と予算超過が発生する。

成熟度  
レベル **0** 不完全な

『場当たりのでわからない。』作業が完了するか不明である。

# ①-4-2. 差別化の原動力 (SIビジネスへのCMMI®の活用)

国内では6社※のみの達成  
CMMI® (V2.0) レベル5

※ 2023年10月末現在

CMMI®V2.0とV1.3の違い

評価において、CMMI®V2.0では、Governance（統治）とImplementation Infrastructure（実装のインフラ）の2つのエリアが新設され、プロジェクトを成功し続けるために必要な仕組み及び基盤があるか、ガバナンスを効かせているか、という点を独立して確認。



アジャイル開発の良さであるスピードや柔軟性を活かしつつ必要な品質を達成するために、当社開発標準である「SICP」にアジャイル用の品質保証のプロセスを策定



大規模アジャイル案件拡大の足掛かりに



# ①-4-3. 差別化の原動力 (CMMI®知見の更なる活用)

## 実績豊富なCMMI®コンサルティング・サービス

CMMI®リードプレイヤーや経験を積んだコンサルタントが、CMMIを活用した組織能力改善コンサルティングサービスや、CMMIアプレイザルサービスを提供しております。

また、アジャイルのリーダーシップに関する米国の研究開発機関であるAgileCxO.org, Inc.とのパートナー契約のもと、同社が開発したアジャイル開発の成功と定着を総合的にサポートするモデル、“アジャイル・パフォーマンス・ホラキー (APH)” を活用したコンサルティングサービス（コーチング・アセスメント・トレーニング）も提供しております。

### 1. 当社の考えるCMMIの価値

- ◆ 1-1. CMMIは優れた組織でおこなわれていることをまとめたもの
- ◆ 1-2. CMMIは行動変革・能力向上のモデル
- ◆ 1-3. 自分たちのやり方をCMMIと比較することで改善サイクルが起動される

### 2. CMMIを活用した改善アプローチ(当社の信念)

- ◆ 2-1. 落とし穴・・・焼畑農業 (Slash and Burn) 的アプローチ
- ◆ 2-2. 自組織の資産を育てながら弱みを補うアプローチ (当社推奨)
- ◆ 2-3. CMMI使用上の注意・・・参考情報を“要求事項”と誤解しないで

### 『CMMI® & アジャイル コンサルティングのブログ』

CMMI®の基礎理解から、現場で活用できるプラクティス領域の解説、CMMI®活用事例、またビジネスからキャリアまでデザインできる「匠Method」の紹介など盛りだくさんの内容になっております。



# ①-5. 当社の強み

企業：CMMI® レベル5  
(Capability Maturity Model Integration)

個人：PMP® 資格  
(Project Management Professional)

お客様へ  
品質保証を担保

(グローバルな資格)

高い資格保有率

開発標準 [S I C P]  
(SI&C System Integration Control Process)

ベースは  
当社独自の開発標準

プロジェクト管理の徹底を推進

# ①-6. グループ体制

## 当社グループ体制

合計  
**1,086名**  
※2023年11月現在

**株式会社システム情報**  
従業員数：641名

**(株)エーエスエル**  
従業員数：400名  
(2015年10月買収時：46名)

**(株) SIC デジタル**  
従業員数：45名  
(2015年10月買収時：35名)

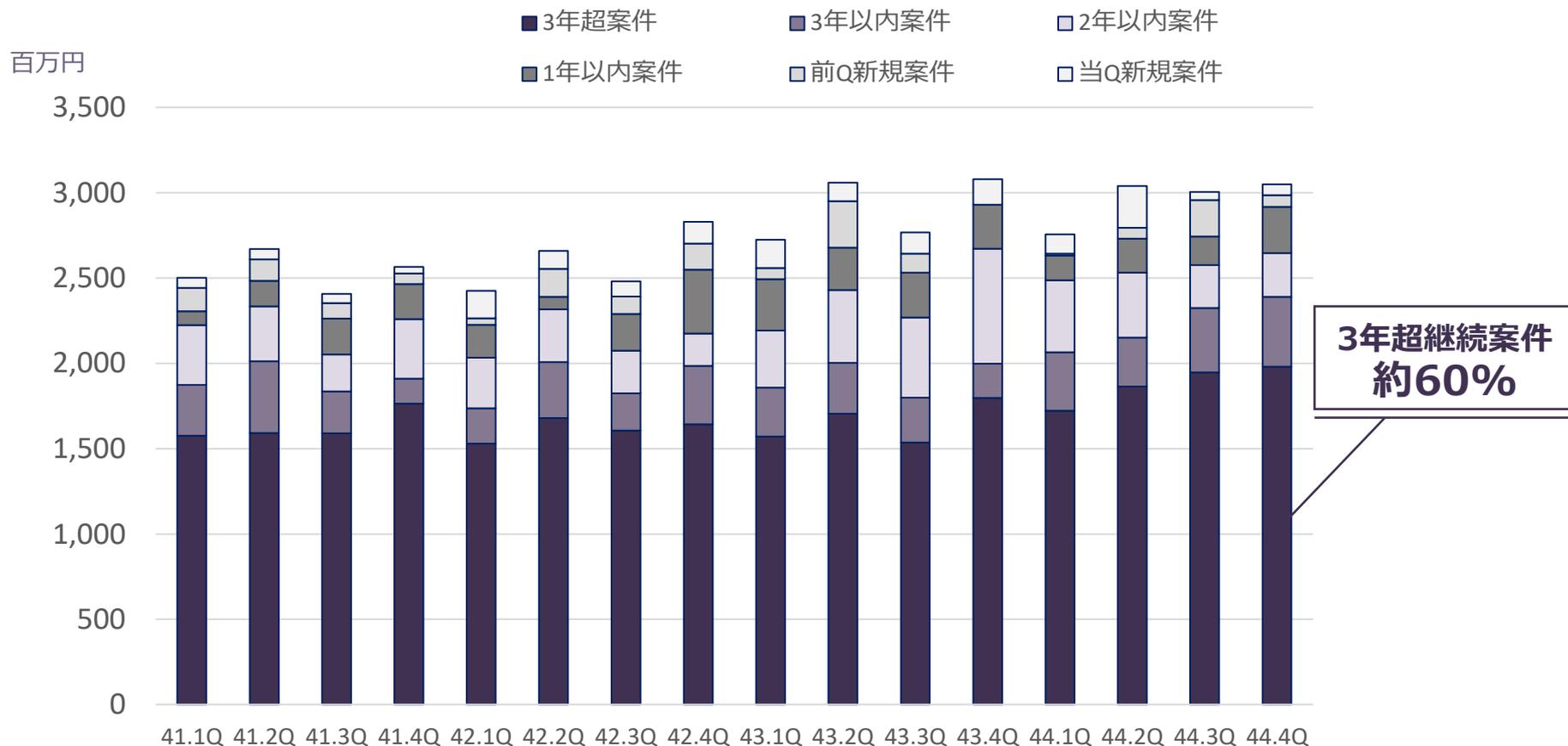
子会社の規模拡大に伴い、連結売上高に  
占める子会社2社の割合が2割強に

## ②-1. 持続的成長に向けた継続的取組み

### ストックビジネス※拡大に注力

※長期間に亘って継続する案件

### S I ビジネスにおける継続案件と新規案件



## ②-2. 持続的成長に向けた継続的取組み

### 収益性向上への施策

SICP (\*) の拡大と定着  
(アジャイル品質、UX (デザイン思考) )

(\*) SICP (SI&C system Integration Control Process)

国際資格/標準であるPMBOK®、CMMI®をベースに長年に亘るSI&Cの開発ノウハウを注入して作成した開発標準。  
SI&CではSICPを全てのプロジェクト開発に適用し、お客様より高い評価を得ている。

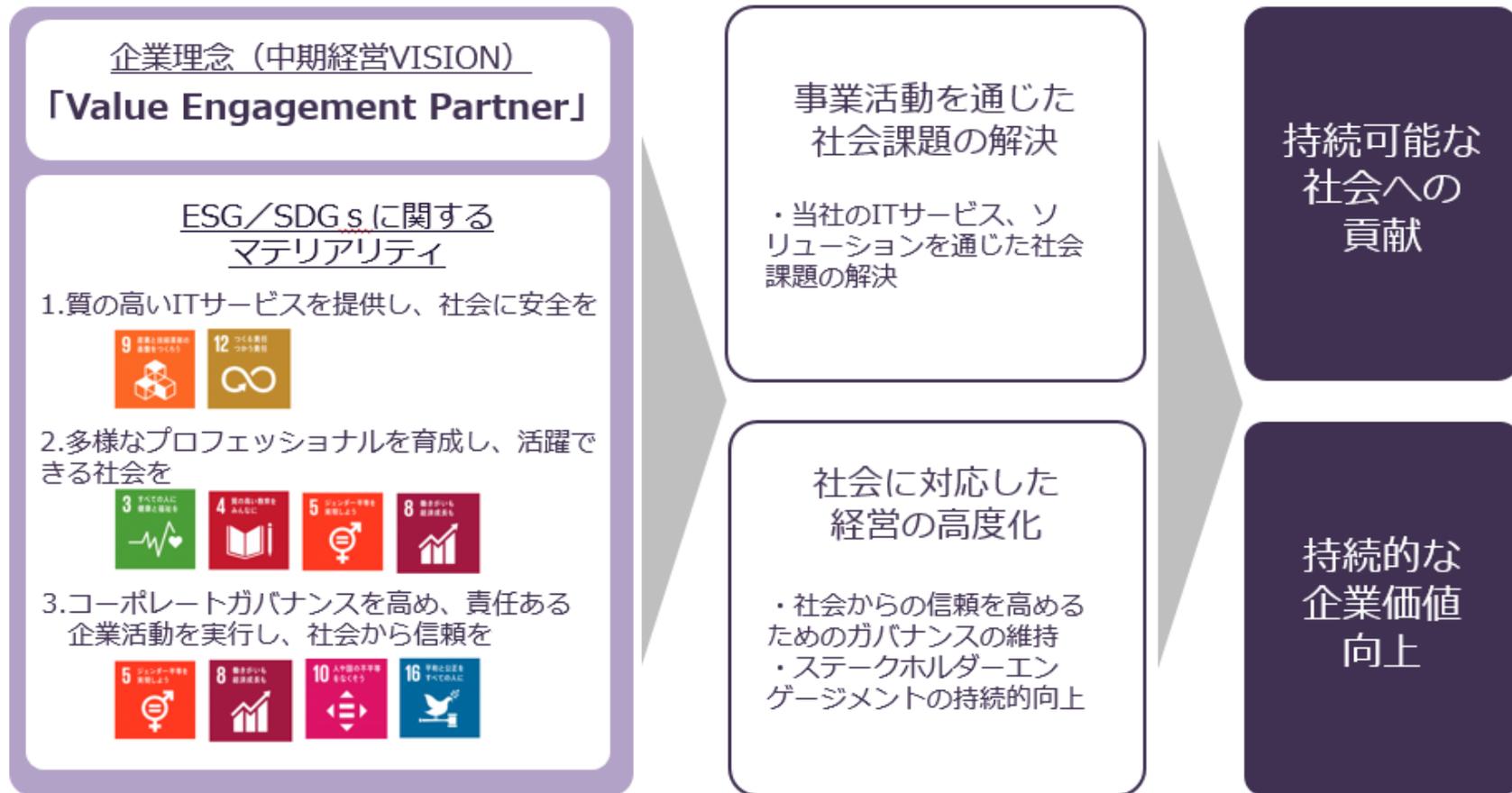
プロジェクトの品質監理の徹底

普遍的な取組み

不採算プロジェクト発生の未然防止による  
高収益率の確保

# ③- 1. ESG・SDGsに関する取組方針

中期経営VISION「Value Engagement Partner」を基にした経営を通じ、社会的価値・経済的価値を創出し、持続的な企業価値向上だけでなく、持続可能な社会の実現に貢献することを基本方針の一つとして掲げております。I

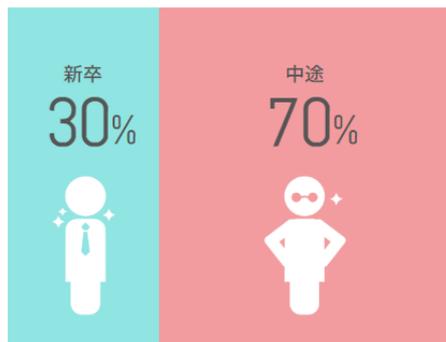


## ③-2. ESG取組み

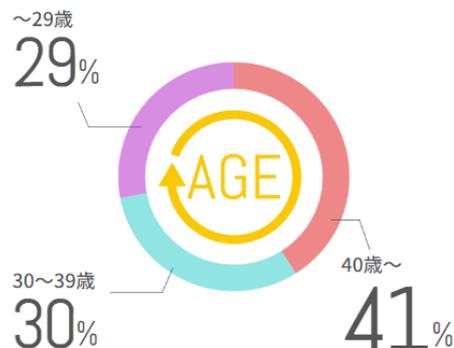
「健康経営優良法人2023」認定

### 人材の多様性

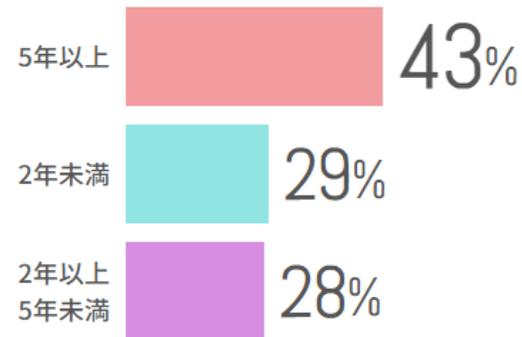
#### 新卒・中途比率



#### 社員の年代



#### 勤続年数



### 労働環境

#### 平均残業時間

13.26時間



#### 女性社員の産休育休

取得率・復職率

100%



育休8名中 男性社員4名  
※2023年11月現在

※ 各数値は、システム情報単体

## ③-2. 社会貢献活動

### 障がい者雇用の促進：わかばファーム



### 地域貢献活動

#### 子ども食堂「おひさまキッチン」への支援



### 開発途上国における給食支援活動

#### TABLE FOR TWO Internationalへの支援



©TABLE FOR TWO

TABLE FOR TWO 主催の「おにぎりアクション2022」にも協賛  
(2022年9月1日PR情報)

### IT教育への取り組み：地域ICTクラブ活動



2018年に狭山市産業振興課ならびに地域企業と早稲田大学グローバルソフトウェアエンジニアリング研究所が連携して始めて以降、狭山市公民館と同研究所が連携しておこなっているICTクラブ活動に、当社取締役の鷲崎、フェローの小林が参画し、小中学生を対象にモノづくり体験を通じてプログラミングやICTを学習できる講座を支援しております

《各詳細》 <https://www.sysj.co.jp/company/company-approach-sustainability/sustainability-social-contributions>

本資料には、当社の見通し、目標、計画、戦略などの将来に関する記述が含まれております。これらの将来に関する記述は、当社が現在入手している情報に基づく判断および仮定に基づいており、判断や仮定に内在する不確定性および今後の事業運営や内外の状況変化等による変動可能性に照らし、将来における当社の実際の業績または展開と大きく異なる可能性があります。

本資料に記載されている社名、製品名等は各社の商標または登録商標です。

<IRに関するお問合せ>

<https://www.sysj.co.jp/contact/contact-form>